

# シャロームだより

## 第44号

2019. 12. 20

救い主降誕によってすべての人が平和と慰めを受け、天の御父から自分が愛されている  
 ことを感じ、互いを見出し、兄弟姉妹として生きることができますように。

——教皇フランシスコ——



★ クリスマスおめでとうございます ★

1. 間もなく、クリスマス！ 幼子イエスが、世界の悲しみ、苦しみ、絶望の只中に、希望の光を灯します。「シャローム平和のための祈りのセンターの意向」を共に祈りましょう。
  - ① 国家レベルで地球温暖化を防ぐ取り決めができない今、私たち市民の危機感と願いを繋ぐことで、地球温暖化防止を現実のものとしてすることができますよう、私たちに必要な力をお与えください。
  - ② 石炭火力発電や原子力発電を推進している日本政府が様々なしがらみを乗り越えて、風力や地熱、太陽光などを使った持続可能なエネルギー政策へと転換できますよう、また私たち一人一人に責任があることを自覚し行動できますよう、お導きください。
  - ③ 来日されたフランシスコ教皇様が、日本の難民受け入れに関して「友情を広げ、日本へ逃れてきた人たちを積極的に受け入れることをお願いしたい」と若者への講話で話されました。難民とひとくくりに呼ばれる人々を1人の人として受け止め、ともに暮らせる社会を築いていけますよう神の照らしと導きを祈ります。

- ④ 世界人権宣言は、戦争によって人としての尊厳や自由を奪われた数多くの人々の犠牲の上に成立しました。今また世界が自国中心主義の支配する方向へ逆戻りしつつある中、人類が人権宣言の誓いを守り抜くことができるよう、必要な洞察と力をお与えください。
- ⑤ 大人による子どもへの虐待が後を絶ちません。どうか子どもたちを守ることができますよう、私たちをお導きください。また、親のDVなどにより、児童養護施設で暮らす子どもたちは18歳になると施設を出なければなりません。彼らの一人暮らしへの準備と就職活動を祝福してください。このような環境で幼少期、青年期を過ごす若者たちに、愛されていることを知り、神を信じる恵みが与えられますように。
- ⑥ 引きこもりの人々とその家族の孤独な苦しみをかえりみてください。その苦しみが共有され、適切な支援が提供できる社会へと変われるよう、私たちを照らし導いてください。

## 2. 学び、祈り、行動しましょう

- 1) COP25（国連気候変動枠組み条約締約国会議）は、スペインのマドリードにおいて、12月2日から13日までの予定で開催されました。COP25には、2020年からパリ協定が本格実施されるに当たり、各国が温室効果ガス削減目標の更なる引き上げを自主的に行う、このため途上国が必要とする資金や技術を援助する、温暖化によって既に起きている被害の軽減化を進める、二酸化炭素排出削減量取引を見直すなどによって、温暖化の脅威への対応を強化する合意に達する期待がかけられていました。しかし実際には、会期を2日延長し徹夜の協議をしたにもかかわらず、地球温暖化を食い止める積極的合意に達することができないまま15日に閉幕したのです。大排出国の中国（世界全体の排出量の30%を占める）、インド（6.4%）、ロシア（4.5%）、は「我々は、すでにそれぞれに野心的な気候対策をしており、大きな進展をしている」と言って今後の新たな取り組みには後ろ向きです。米国は世界第2の大排出国ですが（15%）パリ協定を離脱する手続きを進めています。日本（3.5%）の場合、現政権下では石炭火力発電からの離脱は困難です。大国の現状はこの通りですが、希望もあります。
- 国連は84ヶ国が削減目標の引き上げを表明するか、検討をしていると発表しています。
  - 約20ヶ国が、「野心連合」と称して高い削減目標を掲げ協議を進めています。
  - 世界の主な機関投資家による「ネットゼロ・アセット・オーナー・アライアンス」は2050年の実質排出量ゼロの実現に沿った投資を約束した保険会社や年金基金などの運用資産が約440兆円になったと発表しています。
  - 欧州の大手企業で作る「1.5度（\*）への企業行動要請」は、2050年までに実質排出量ゼロの計画を持つ参加企業が現在177社、従業員数が580万人になったと発表しました。【（\*）パリ協定は、平均気温の上昇を産業革命前より2℃未満、

出来れば1.5°Cに抑えることを目指しています】

- そして若者です。16歳の環境活動家、スウェーデンのグレタ・トゥンベリさんは昨年一人でこの活動を始めました。でも今では、世界中に数多くの仲間がいます。ニューヨークの高校生は「若者は今は世界人口の一部でしかありませんが、私たちが将来を100%担っているのです」と言っています。グレタさんは言います。「希望は危機に気づき始めた人たちの中から生まれるのです。一度気づけば私たちは行動を変えられます。人々は変われます。私たち、それが『人々』です。それこそが希望です。…」

2) 12月10日は世界人権デーです。今年は世界人権宣言ができて71年目になります。

今年のテーマは「若者が人権のために立ち上がる」です。なぜ若者なのでしょう？誰をも除外しない『持続可能な開発』のために若者の参加は欠かせません。若者はいつでも政治的、経済的、社会的変容を推進する最前線にいる存在でした。彼らはより良い世界のために、新しいアイデアや問題解決の発想を提供してきました。社会参加は人権の基本です。ところが一般に若者は「まだ若い」ということで尊重されず、社会の周縁部に追いやられています。若者が頂いている力を発揮できる環境を作ることは社会の、そして私たち大人の責任です。

香港での長引く、そしてエスカレートしていく抗議行動には心が痛みます。若者たちが、自分の人生をかけ、いのちまでかけて訴えたいことは何なのでしょう。巨大な中国に飲み込まれようとしているマイノリティ香港には独自の歴史と文化があります。益々独裁化を進めている習共産党支配下に入ることは断じてできない、と感じているのでしょうか。

それでは、このような事態を前に私たちに何ができるのでしょうか。まず新聞、テレビ、インターネットのニュースを通して見守ることで。狭い香港で、絶望的な抗議行動が続いている香港の人々にとって、世界が見守っていると知ることはどれほど心強いことでしょうか。そして祈ること。現実を見守りつつ祈る祈りには力があります。そして気づきや思いを分かち合うことです。私たちも人権のために立ち上がる若者に寄り添って行くことができますように！

3) 最近、引きこもり男性の家庭内暴力がエスカレートし、思い余った父親が息子を殺害するという悲しい事件が起こりました。殺人罪で起訴された父親の裁判も終わり、判決は執行猶予なしの懲役6年で確定しました。

内閣府によれば、今年、40歳から64歳の引きこもりの人が全国で61万人に及び、若年層を上回る人数とのことです。ことが家庭内の問題でもあるので、親もどこに相談してよいか分からず、問題を抱えたまま孤立してしまいがちです。就労をゴールのように考えることにも問題があるでしょう。問題を抱え込んでいる家族のSOSに耳を傾けられる社会、問題に苦しむ家族がSOSを発信しやすい社会にしてゆくことを目指して行かなければなりません。人の生きづらさには、様々な要因が重なり合っています。それぞれの状況にあった丁寧な支援が必要とされるでしょう。

引きこもりの人の増加は、苦しむ家族の増加を意味しています。このような状況の中で、私たちにできることは何でしょうか。

### 3. お知らせとお願い

- 1月は「シャローム国際連帯の省察」があります。1月6日（月）に発送しますのでご活用ください。
- シャローム委員会メンバーを募集しています。関心のある方はS. ジュディスまでご連絡ください。
- 「シャローム平和のための祈りのセンター」1月分の祈りの意向を募集しています。1月15日（水）までに本部オフィス、またはシスタージュディスまでお届けください。皆さまが日ごろから心にかけておられる思いや願いを是非「シャローム平和のための祈りのセンター」の意向として分かち合ってください。ご一緒に祈ってまいりましょう。
- 『核兵器廃絶を求める 1000 万署名用紙』をお届けします。この署名用紙をお送りするのは初めてですので、どなたでも署名していただけます。知人・友人にもお声をかけていただき、一筆でも多く署名を集めていただければ幸いです。締め切りは1月8日（水）です。本部オフィスまでお送りください。